

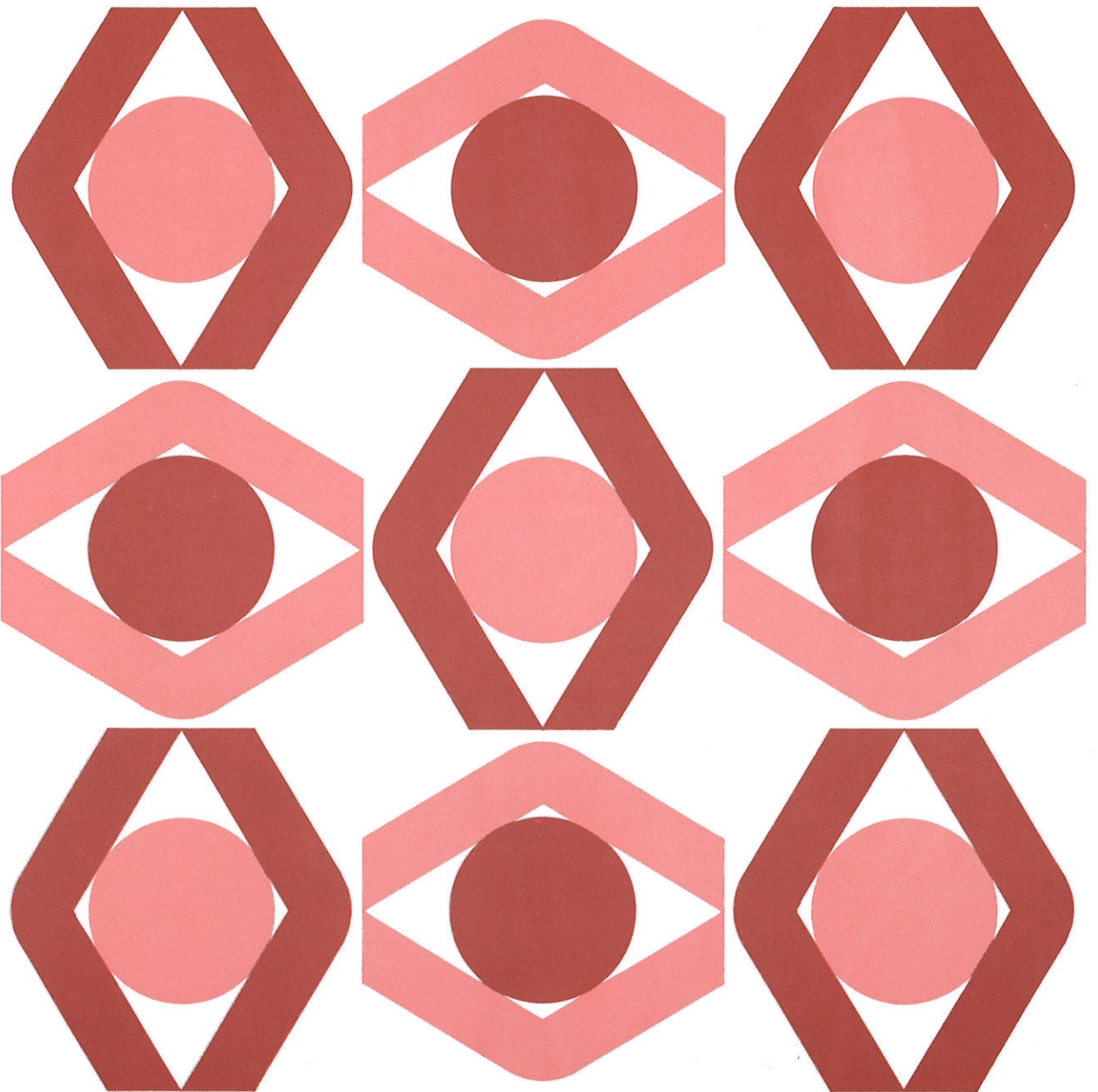
# ヘビーロック

縁かがりミシン

BL3-406型

ご使用のてびき

株式会社 **ジューキ**



取手型糸案内

針棒天秤

針糸調子器

上メス

メスカバー

押え金

針板

下メス

下側面カバー

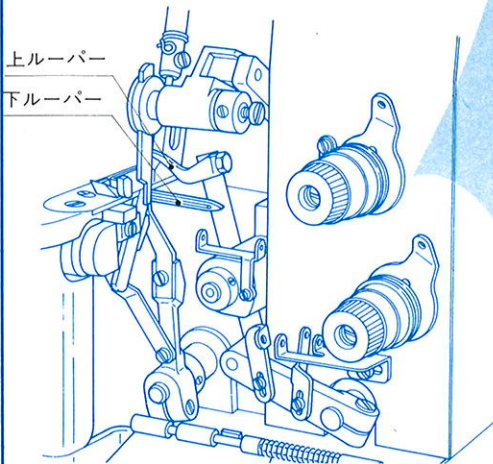
糸立棒

糸巻受台

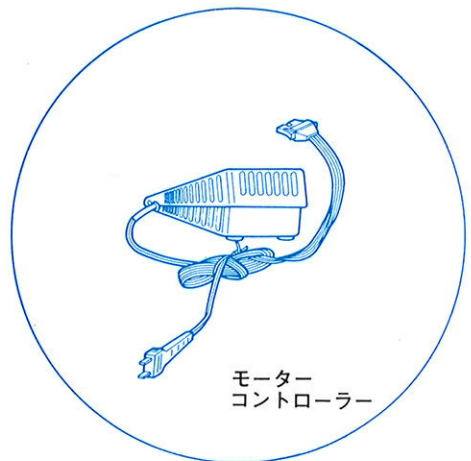
はずみ車

下ルーパー糸調子器

上ルーパー糸調子器



ルーパー部詳細図



モーター  
コントローラー

※安全のため使用後は電源プラグを抜いてください。  
また、コントローラーの上に物を載せないでください。

# はじめに

このたびは、ベビーロックをお買上げいただきましてありがとうございます。  
うございます。

このロックミシンを最も有効に末長くお使いいただくために、  
このたびきをお役だてください。

## 目 次

1. 縫うための準備	2
1-1 糸通しの前に	2
1-2 糸の交換	3
1-3 糸の通し方	4
1-4 糸のからみ具合の確認	6
1-5 コントローラーの使い方	6
2. 糸調子のとり方	7
3. 押え圧力について	8
4. 針のとりかえ方	8
5. 送り目の調節について	9
6. かがり巾の調節について	10
7. 補助押えの調節について	11
8. メスの交換について	12
8-1 下メスの取りかえ方	12
8-2 上メスの取りかえ方	12
9. 注油について	13
10. 別売の専用ライトをつけるとき	13
11. 点検と調整について	14
12. カーボンブラシの交換について	14
13. 梱包明細	15
14. 仕様表	16
15. 布地と糸の関連表	17

# 1 縫うための準備

## 1-1 糸通しの前に

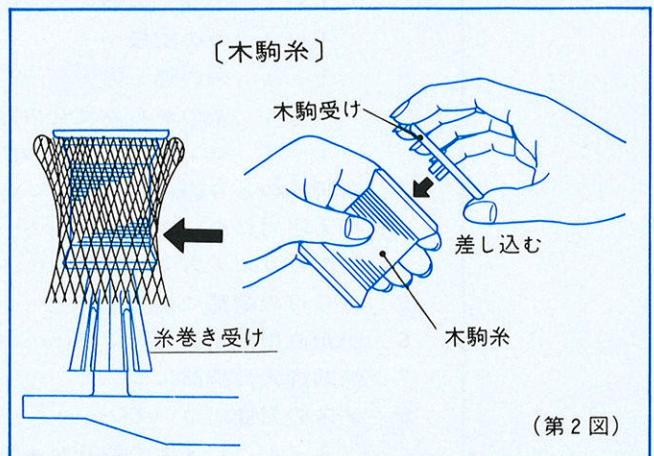
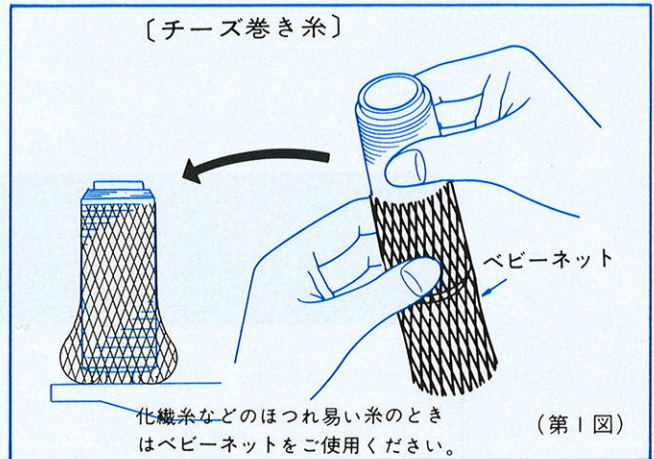
### ① 糸立棒のセット

糸立棒をいちばん上まで伸ばし、1段目と2段目のつなぎ部分にある位置決めストッパーによりセットしてください。

### ② 糸巻きのセット

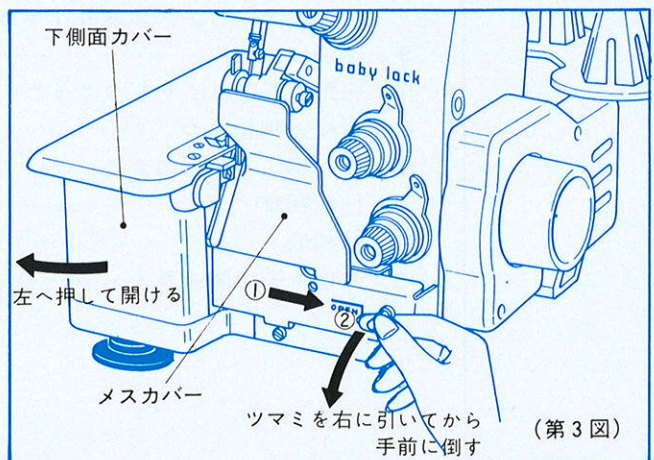
糸巻きを糸巻き受けにしっかりと立ててください。

このミシンには普通チーズ巻き（又コーン巻き）の糸を使いますが、ボビン巻き糸もお使いになれます。この場合「第2図」のように付属の木駒受けをボビン巻きの穴に差し込んで糸巻き受けの上に乗るようにセットしてください。



### ③ メスカバー・下側面カバーの開け方

先ずメスカバーを「第3図」のようにツマミを右に引いてから手前に倒してください。次に下側面カバーを左へ押して開けてください。



## 1—2 糸の交換

このミシンはあらかじめ糸がセットされておりますが、使用中の針糸、上ルーパー糸あるいは下ルーパー糸を、糸色など他の糸と交換してお使いになる場合は、次のようにしていただくと便利です。

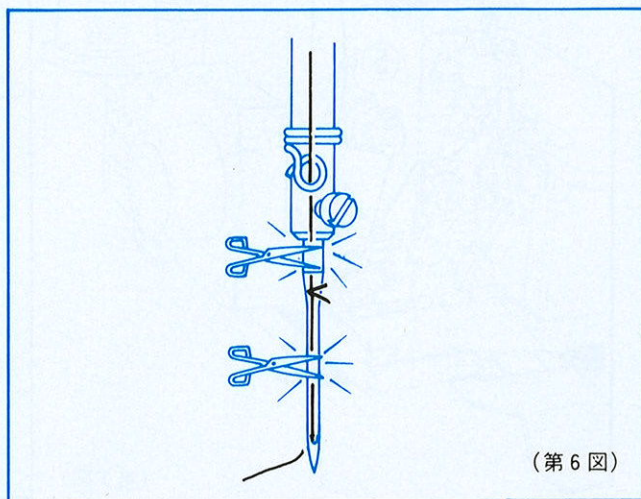
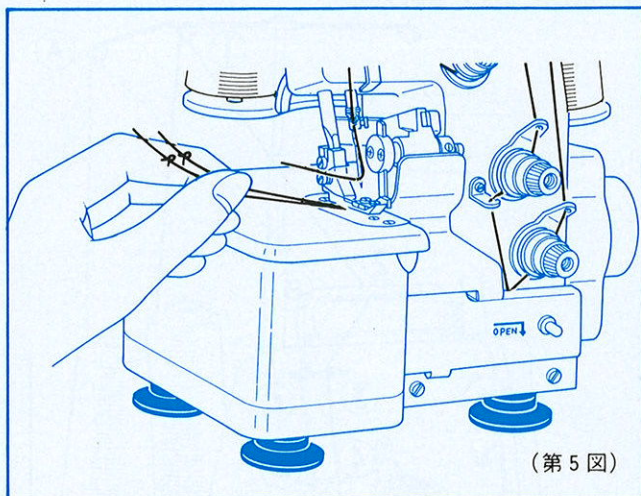
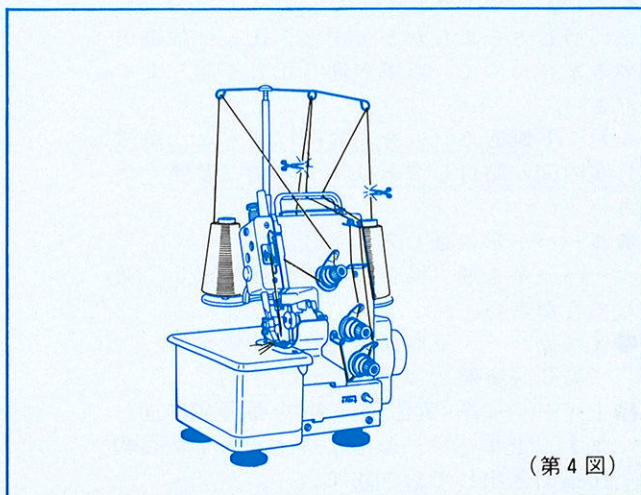
- ①糸巻きの近辺で糸を切り、交換したい糸につなぎ変えます。(第4図参照)
- ②押え金を上げます。

- ③糸調子皿を浮かし、糸のつなぎ目が押え金より約10cm出るまで引き出します。

(第5図参照)

ただし針糸を引き出す場合は、針を曲げない為に、つなぎ目を針穴の手前で止め、糸を切って針穴に通します。(第6図参照)

- ④ ミシンを動かす時は下側面カバー・メスカバーを閉めて下さい。



# 1-3 糸の通し方

糸の通し方をまちがえますと、正しい裁縫ができませんので、以下の通り正しく通してください。

なお、下側面カバーを左に開けますと、糸通し案内図が貼付してありますのでご参照ください。

## ●ルーパー糸の通し方

ルーパー糸を通す場合は次の順序で正しく通してください。

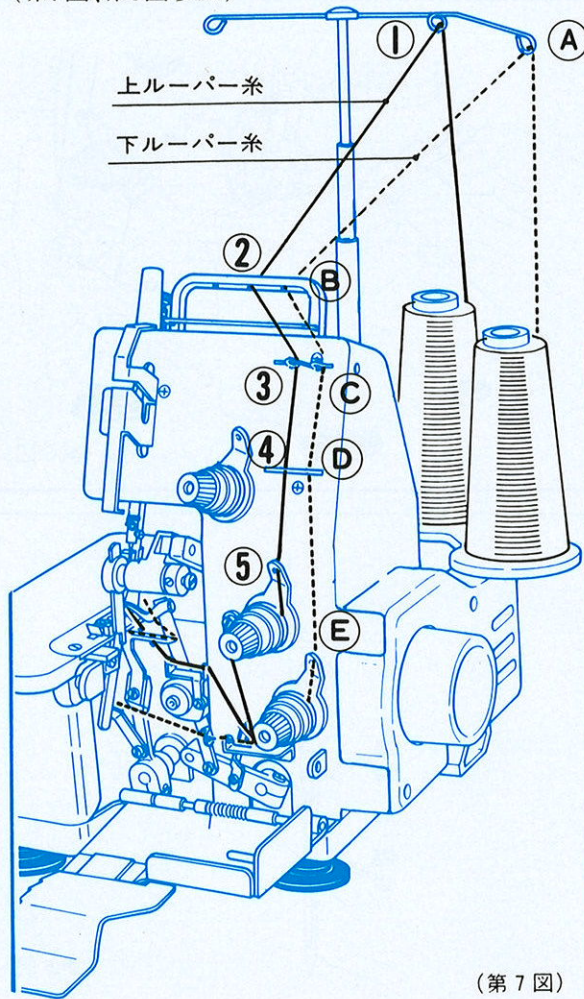
- ①メスカバー・下側面カバーを開けます。  
(第3図参照)
- ②上ルーパー糸(黄色マーク)を番号順に通します。上ルーパー糸は、押え金の下から約10cm引き出しておきます。  
(第7図、第8図参照)

- ③下ルーパー糸(緑色マーク)をA・B・C順に通します。下ルーパーに糸を通す場合は、はずみ車を回転方向に回し、下ルーパーをいちばん左にします。

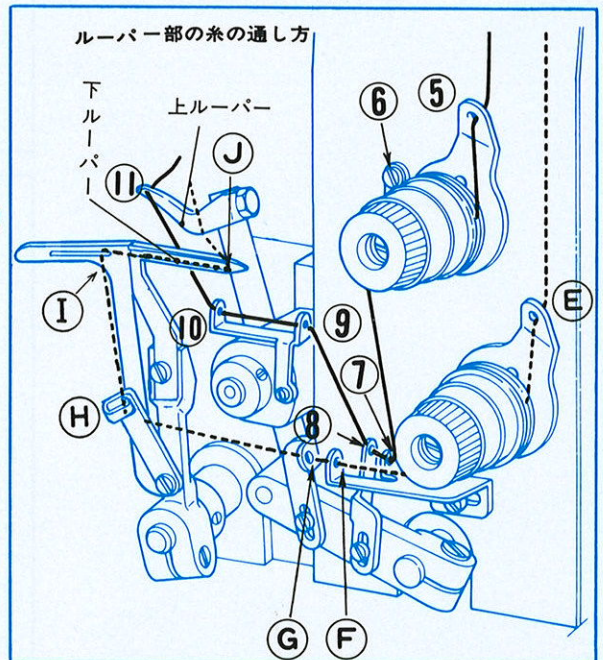
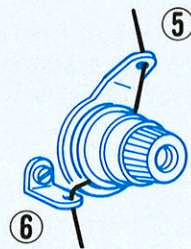
下ルーパー糸案内⑨と⑩に糸をかけます。次に下ルーパーをいちばん右にして、下ルーパー糸穴⑪に糸を通します。

下ルーパー糸は、押え金の下から約10cm引き出しておきます。(第7図、第8図参照)

- ④メスカバー・下側面カバーを閉めます。  
※裁縫中に下ルーパー糸が切れて、通し直しをする場合は針糸を針穴から抜いて行って下さい。



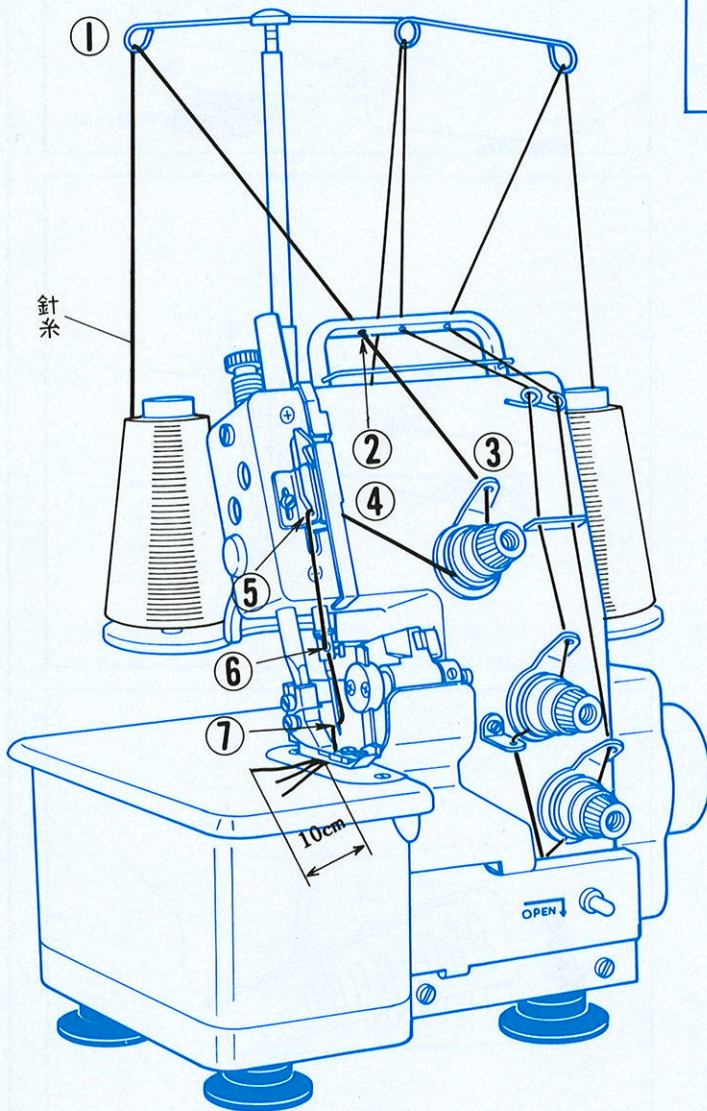
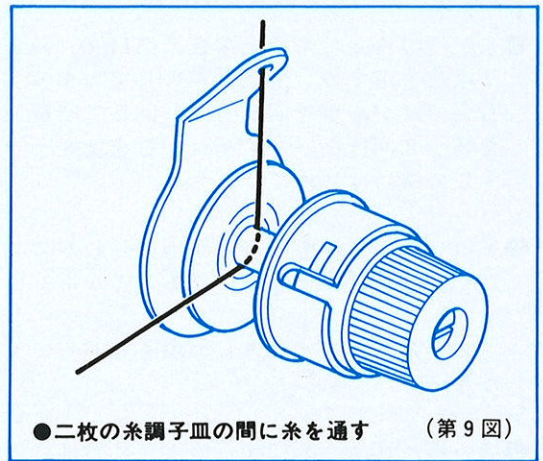
(第7図)



(第8図)

●針糸の通し方

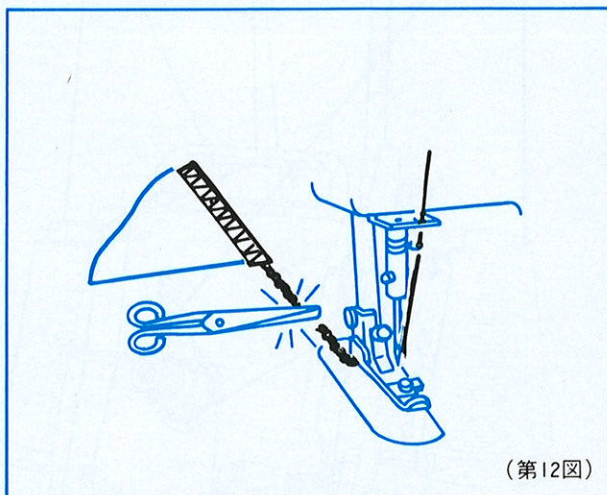
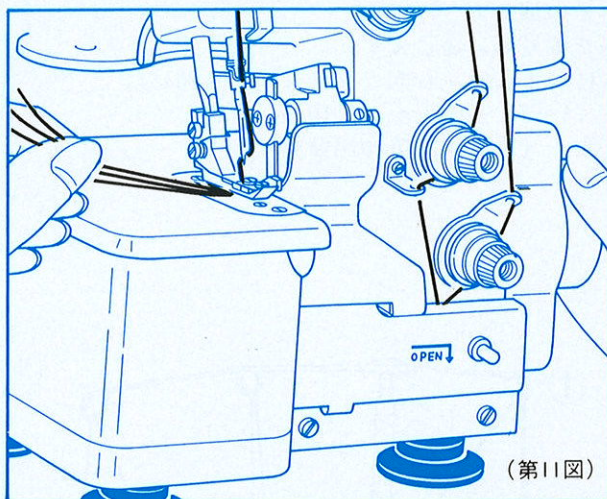
針糸を番号順に通します。  
針穴には手前側から向こう側（エグリ部）に  
通して、押え金の下から約10cm引き出してお  
きます。（第9図、第10図参照）



(第10図)

## 1—4 糸のからみ具合の確認

- ①糸かけの終わった糸の先端を「第11図」のように左手指で少し張りぎみにしてつまみ、右手ではずみ車を回転方向に回して空縫いを2～3回行なって、それから布地をセットして縫いはじめてください。
- ②糸のバランスが悪いと、布地にしわができたり、縫い目が不揃いになることがあります。  
「2・糸調子のとり方」の項を参照してください。
- ③縫い終わりは「第12図」のように布地の端から空縫いを2～5cm長くとり、切断してください。

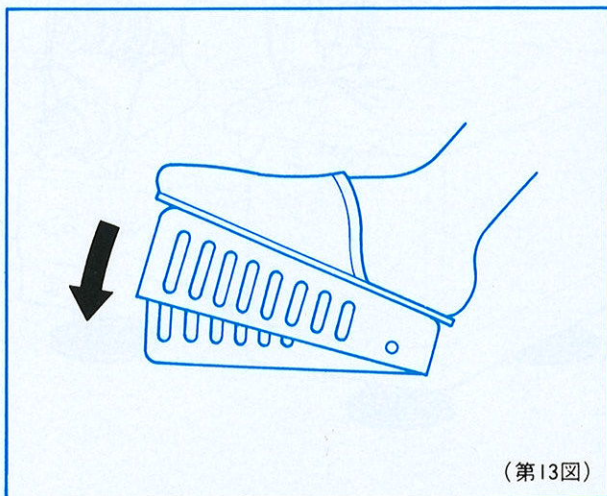


## 1—5 コントローラーの使い方

- ①コントローラーの接続器をモーターに差し込みます。次に電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ②コントローラーに「第13図」のように足をかけ、強く（深く）踏むとミシンの回転が速くなり、弱く（浅く）踏むと遅くなります。  
(このミシンは、家庭用ミシンと違い逆)方向に回転します。

※ミシンを連続してご使用になりますとコントローラーが暖かくなりますが、性能上では全く差しかえありませんので、そのまま安心してお使いください。

※ご使用後は電源プラグを抜いてください。また、コントローラーの上に物を載せないようにしてください。



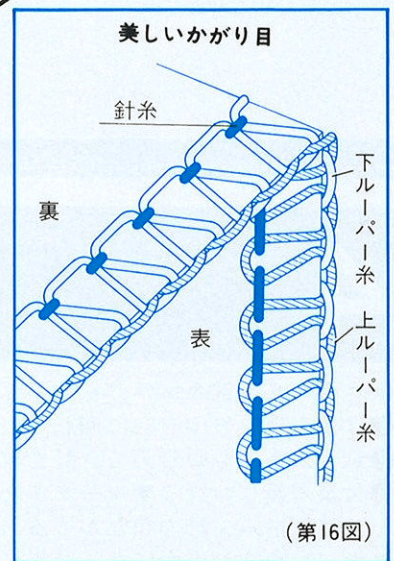
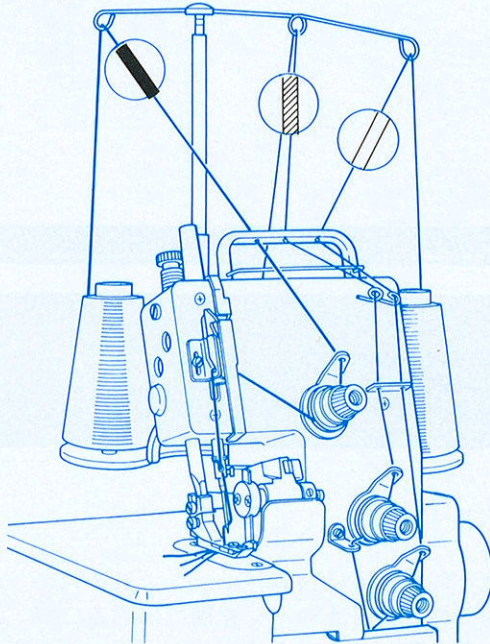
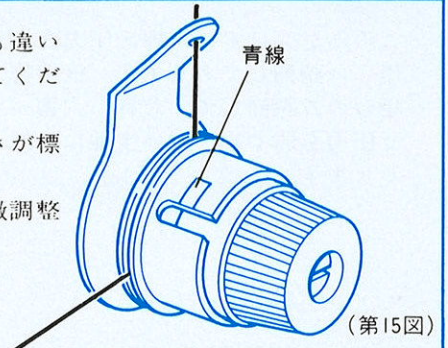


# 2 糸調子のとり方

糸調子のとり方は布地の種類や使用糸の太さ、種類によっても違いますのでそのつど縫い目を見ながら各糸調子器で調子を出してください。

「第15図」のように各糸調子ツマミの端が青線の中にあるときに標準縫い調子です。

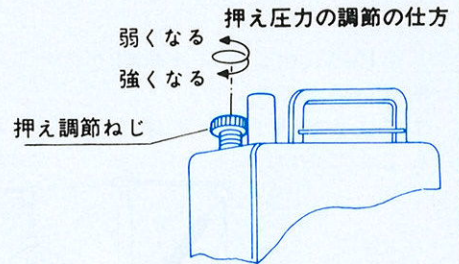
まず、各糸調子器を青線の中央に合わせてから縫い目を見て微調整してください。



<p>上ルーパー糸が裏へ巻き込む場合</p> <p>針糸</p> <p>裏</p> <p>表</p> <p>下ルーパー糸</p> <p>上ルーパー糸</p> <p>上ルーパー糸調子器を締めてください。又は下ルーパー糸調子器をゆるめてください。(第17図)</p>	<p>下ルーパー糸が表へ巻き込む場合</p> <p>針糸</p> <p>裏</p> <p>表</p> <p>下ルーパー糸</p> <p>上ルーパー糸</p> <p>下ルーパー糸調子器を締めてください。又は上ルーパー糸調子器をゆるめてください。(第18図)</p>	<p>針糸が浮く場合</p> <p>針糸</p> <p>裏</p> <p>表</p> <p>下ルーパー糸</p> <p>上ルーパー糸</p> <p>針糸調子器を締めてください。又は上ルーパー糸調子器と下ルーパー糸調子器をゆるめてください。(第19図)</p>
---	---	---

### 3 押え圧力について

このミシンはすでに押え圧力を標準（中厚物用）に調節してあります。極薄物、極厚物の場合のみ調節してください。薄い生地には押え圧力を弱くし、厚い生地には押え圧力を強くします。



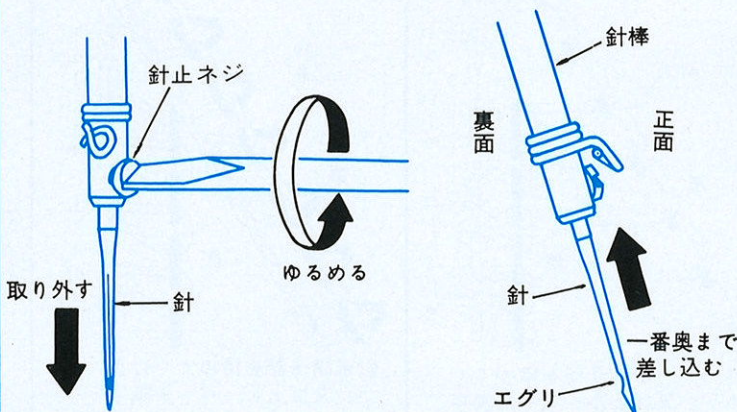
(第20図)

### 4 針のとりかえ方

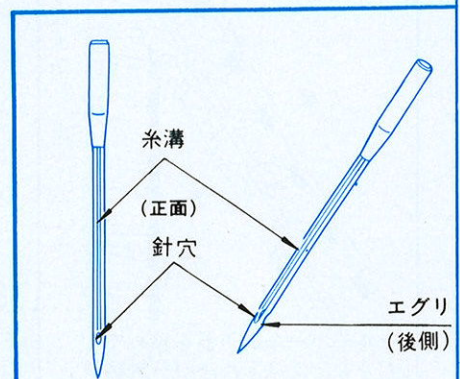
はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業してください。

- ①はずみ車を矢印方向に回し、針を一番上にあげる。
- ②針止めネジをゆるめて、針を取り外す。
- ③付属の新しい針の▼マークを必ず手前（エグリの有る方は後側）にして、針棒穴の一番奥まで差し込み、針の向きがくるわないように手で押え、針止めネジを固く締める。

※尚、市販でお求めになったDC×1針には、この▼マークがありません。従って市販針を取り付ける場合は、必ずエグリの有る方を後側（向こう側）にして下さい。



(第21図)

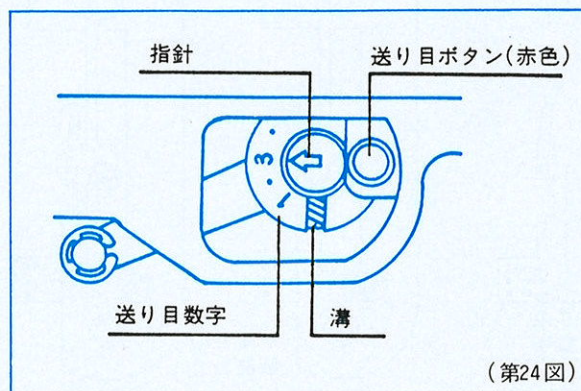
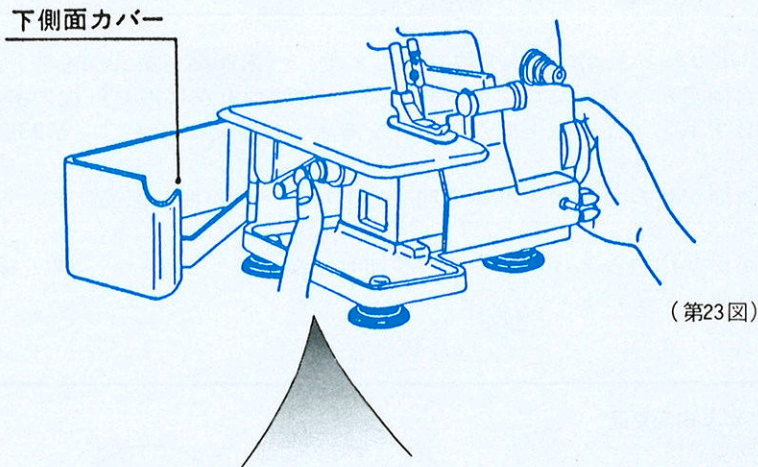


(第22図)

# 5 送り目の調節について

このミシンは出荷時、送り目が標準の3ミリにセットされていますが、布地や好みに応じて1ミリから5ミリまで調節する事が出来ます。

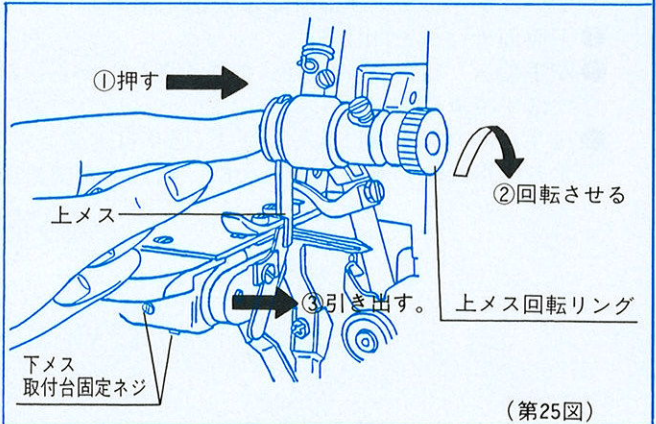
- ① 下側面カバーを開ける。。
- ② 左手で送り目ボタン(赤色)を強く押しながら、溝に送り目ボタンがパチンと入るまで、右手ではずみ車を廻らす。
- ③ 送り目ボタンが溝に入ったまま(送り目ボタンを押し続けた状態で)、再び、はずみ車を廻らすと、指針が動きます。この時、指針を希望の送り数字に合わせる。



# 6 かがり巾の調節について

このミシンは標準かがり巾 $3.5\text{mm}$ にセットしてありますが必要に応じて $2.5\text{mm}$ ～ $5\text{mm}$ に簡単に変わることができます。その場合は次の順序で正しくセットしてください。

- ①はずみ車を回転方向に回して針をいちばん上にします。
- ②メスカバーと下側面カバーを開きます。
- ③下メス取付台固定ねじ（2本）をゆるめ下メス取付台を上メスと、ともに右にいっぱい寄せて止めます。（第25図）
- ④かがり巾調節ねじをゆるめ針板爪を希望のかがり巾にセットします。このとき、かがり巾指示数字の横の丸印を針板の端と合わせてください。



(第25図)

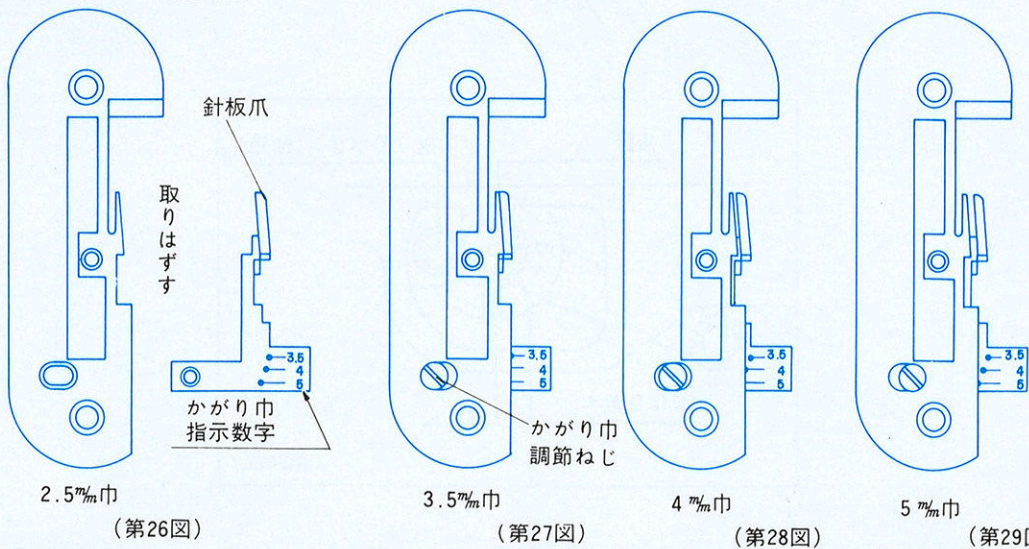
$2.5\text{mm}$ のかがり巾のときは針板爪を取り外します。（第26図～第29図参照）

- ⑤下メス取付台固定ねじをふたたびゆるめ、下メス取付台を左に寄せ針板に密着させて固定します。この場合、必ず下メスと針板上面が同一になるように固定します。（第33図参照）

※かがり巾の調節が終わったらはずみ車を回して上ルーバーが他の部品にあたらないことを確認してください。

※ $4\text{mm}$ 以上のかがり巾のときは補助押えの調節も行なってください。「7・補助押えの調節について」の項を参照してください。

## 針板のかがり巾変更図



$2.5\text{mm}$ 巾

(第26図)

$3.5\text{mm}$ 巾

(第27図)

$4\text{mm}$ 巾

(第28図)

$5\text{mm}$ 巾

(第29図)

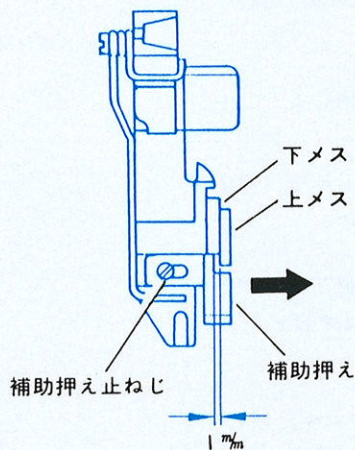
# 7 補助押えの調節について

かがり巾の調節においてかがり巾を $4\text{mm}$ 以上にした場合には補助押えの調節も行なって押え巾を広げてください。

その場合は補助押え止ねじをゆるめ補助押えを右へ移動させますが、補助押えと上メスの隙間は $1\text{mm}$ ていど開けておきます。

(第30図参照)

(かがり巾が $4\text{mm}$ より狭い場合は補助押え)の調節は必要ありません。



(第30図)

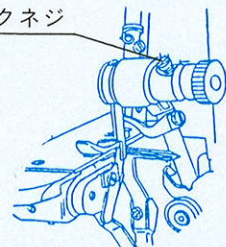
※かがり巾を広い方から狭い方へ戻す場合には補助押えも必ず元に戻す事を忘れないでください。

## 極厚物・段縫い

極厚物・段縫いをする場合、右図の上メスロックネジを締めて(右廻し)ご使用になりますと、メス逃げがなく、スムーズに裁断できます。

⑧ 中厚物・薄物の場合は、必ず上メスロックネジをゆるめて(左廻し)ご使用下さい。

上メスロックネジ



# 8 メスの交換について

はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業して下さい。

メスは消耗品です。メスが切れなくなった場合は、通常下メスを交換して下さい。

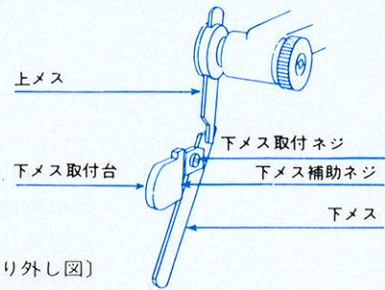
## 1 下メスの交換

- (1)メスカバー、下側面カバーを開く。
- (2)上メスを上に回転させる。
- (3)下メス補助ネジを左に45度( $\frac{1}{4}$ 回転)廻わして、下メスの押し付けを解除する。
- (4)下メス取付ネジをゆるめて、下メスを下に抜く。
- (5)新しい下メスを下メス取付台のメス溝に合わせて、下から上に差し込み、下メスの刃先が針板の上面と同じ高さになるようにして、下メス取付ネジを締めつける。
- (6)下メス補助ネジを右に45度( $\frac{1}{4}$ 回転)廻わして、下メスを押し付ける。
- (7)上メスを元の位置に戻す。
- (8)メスカバー、下側面カバーを閉じる。

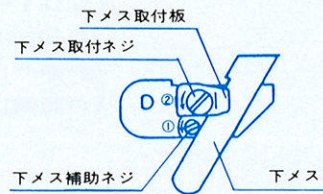
## 2 上メスの交換

上メスは長寿命の特殊な材質で出来ていますので、通常交換の必要はありません。

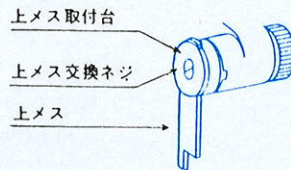
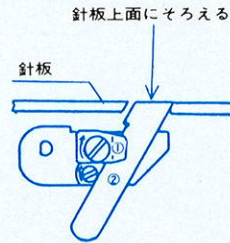
- (1)メスカバーを開く。
- (2)はずみ車を廻わし、上メスを最下点にする。
- (3)上メス取付ネジを左廻して取りはずし上メスを取ります。
- (4)新しい上メスを取り付けます。
- (5)上メスの手前刃先が、下メスの刃先に対して、1%程度かみ合うように位置決めし、上メス取付ネジを締めつける。
- (6)メスカバーを閉じる。



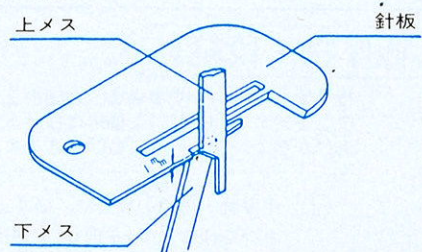
〔下メス取り外し図〕



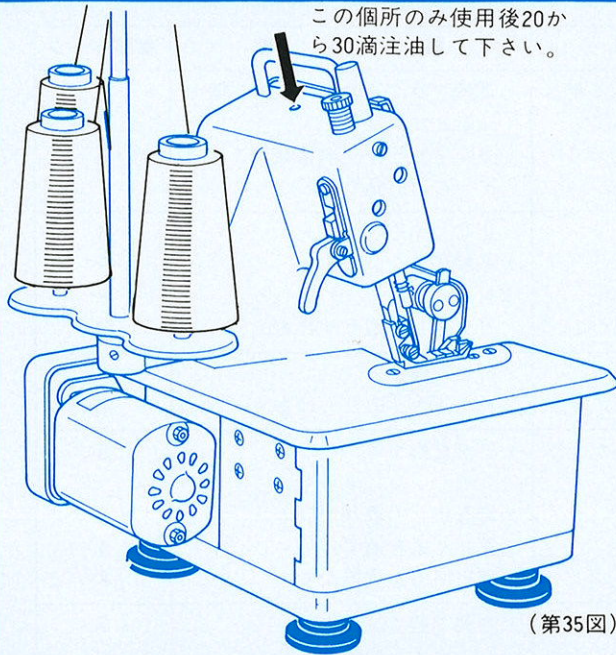
〔下メス取付図〕



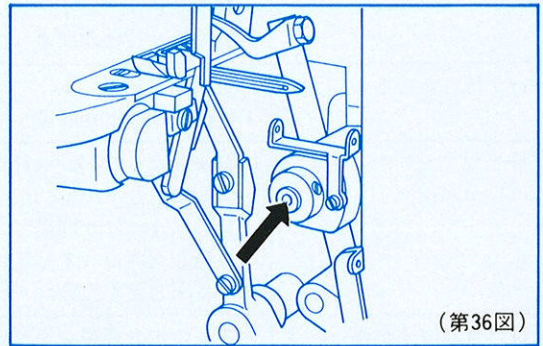
〔上メス取付図〕



## 9 注油について

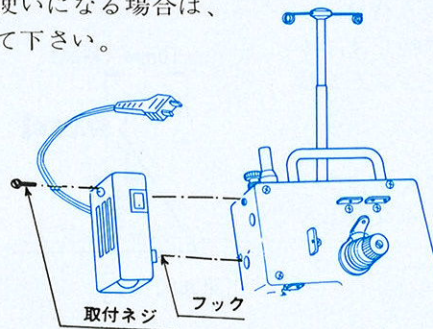


このミシンの大切な個所にはすべて特殊な材料（含油メタル）を用いておりますが、「第35図」、「第36図」に示したような個所に定期的に1～2滴注油してください。



## 10 市販のロック用ライトをつけるとき

市販のロック用ライトをお使いになる場合は、「第37図」のように取り付けて下さい。



(第37図)

# 11 点検と調整について

現象	原因	調整	参照ページ
ミシンが動かないとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源プラグをコンセントに差し込んでいない。</li> <li>コントローラーの接続器をモーターに差し込んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源プラグをコンセントに差し込む。</li> <li>コントローラーの接続器をモーターに差し込む。</li> </ul>	6 6
糸が切れるとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>糸通しが間違っている。</li> <li>糸調子が強すぎる。</li> <li>針が曲がっている。</li> <li>針の取りつけが間違っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく糸を通す。</li> <li>糸調子器を調整する。</li> <li>針を交換する。</li> <li>針を正しく取りつける。</li> </ul>	4 7 8 8
針が折れるとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>針が曲がっている。</li> <li>針の取りつけが間違っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>針を交換する。</li> <li>針を正しく取りつける。</li> </ul>	8 8
目とびするとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>針が曲がっていたり、針先がすり減ったりしている。</li> <li>針の取りつけが間違っている。</li> <li>糸通しが間違っている。</li> <li>押え圧力が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>針を交換する。</li> <li>針を正しく取りつける。</li> <li>正しく糸を通す。</li> <li>押え圧力を調節する。</li> </ul>	8 8 4 8
縫い目の調子が悪いとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>各糸の張力調整が不十分。</li> <li>糸通しが間違っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>糸調子器で調整する。</li> <li>正しく糸を通す。</li> </ul>	7 4

# 12 カーボンブラシの交換について

このミシンに使用しておりますモーターにはカーボンブラシが2個(2カ所)取り付けられています。長時間お使い頂くと、摩耗しますから、「第38図」のようにカーボンブラシを交換してください。

## ① 交換の時期

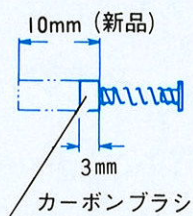
摩耗によりカーボンブラシ図のようにブラシ部分が3mm程度になりましたら交換してください。

## ② 交換の方法

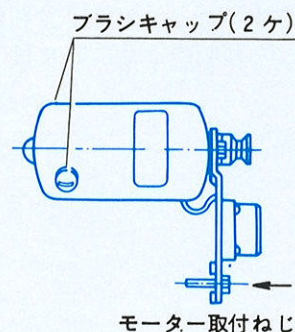
最初にモーターを取り外します。  
次にモーターのブラシキャップを各々取り外し新しいブラシと交換してください。

※摩耗したブラシをそのまま使っていますとモーターから火花が出たり、又モーター故障の原因になりますからご注意ください。

カーボンブラシ図



(第38図)



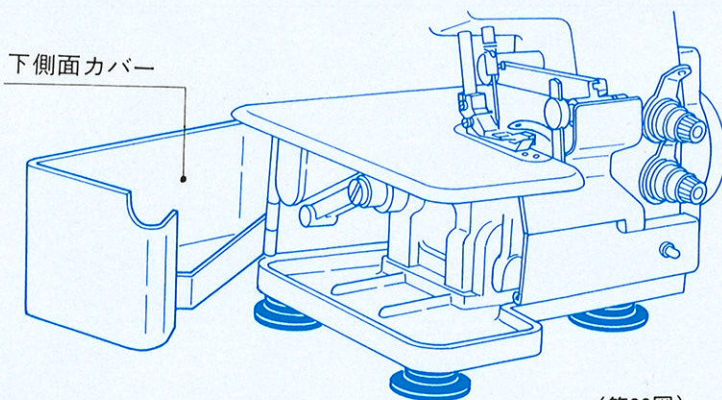
※カーボンブラシの購入先  
ミシン店又は、電気器具店でお求めください。



# 13 梱包明細

1. ミシン (モーター付)
2. コントローラーセット一式
3. 頭部ビニールカバー
4. ご使用のてびき
5. 保証書
6. アクセサリー・ボックス  
ドライバー (マイナス用)  
針DC×1  
下メス  
ピンセット  
掃除用ブラシ  
油差し  
木ゴマ受け  
ベビーネット

「第39図」の下側面カバーのボックスには、お仕事の際に必要な付属品を入れてご使用ください。



(第39図)

# 14 仕様表

基本項目	仕様
かがり巾	標準 3.5 <sup>m/m</sup> (2.5 ~ 5 <sup>m/m</sup> )
縫い目(送り目)	1 ~ 5 <sup>m/m</sup>
針棒ストローク	25 <sup>m/m</sup>
メス上下量	6.5 <sup>m/m</sup>
押え上り量	5 <sup>m/m</sup>
送り歯高さ	0.7 <sup>m/m</sup> (標準)
使用針	DC×1 #9 ~ #14
使用糸本数	3本
給油方式	油芯装置付手差方式
ミシンの大きさ	タテ 250 <sup>m/m</sup> ヨコ 250 <sup>m/m</sup> 高さ 280 <sup>m/m</sup>
ミシンの重さ	6.5kg(モーター付完成品)

※仕様の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

# 15 布地と糸の関連表

	布 地 の 種 類	糸	針
木 綿 麻	〔薄地〕 ボイル、ローン、ブロード、ギンガム、亜麻など	綿 #100 スパン #90	DC×1 #7~11
	〔厚地〕 オックスフォード、デニム、キルティング、ギャバジンなど	綿 #90~60 スパン #80~60	DC×1 #11~14
絹	デシン、クレープ、オーガンジー、サテンなど	絹 #100 テトロン #100	DC×1 #7~11
毛	〔薄地〕 トロピカル、ポーラ、ポプリンなど	スパン #90 テトロン #80 絹 #80	DC×1 #11
	〔普通地〕 サージ、ギャバジン、フラノなど	スパン #90~60 テトロン #80~60 絹 #50	DC×1 #11~14
	〔厚地〕 ペロア、キャメル、アストラカンなど	スパン #60 綿 #50 テトロン #60~50 絹 #60~50	DC×1 #14
化 織 合 織 混 紡	〔薄地〕 ジョーゼット、ボイル、サテンなど	スパン #90 テトロン #100	DC×1 #11
	〔厚地〕 タフタ、ツイル、ベネシャンなど	スパン #90 テトロン #80~60	DC×1 #11~14
ニット	トリコット（化織、合織）	スパン #90 テトロン #80~60	DC×1 #9~11
	ジャージー（化織、合織）	スパン #60 テトロン #60 ウーリー糸(ナイロン・テトロン)	DC×1 #11~14
	毛糸編地	スパン #60 テトロン #60~50 ウーリーナイロン ウーリーテトロン 極細毛糸	DC×1 #14

- お買上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください)
- アフターサービスについてのお問い合わせはお買上げの販売店へご連絡ください。

株式会社 **ジューキ**

本社/〒102 東京都中央区八重洲2-7-2  
(八重洲三井ビル) TEL 03(3272)2851

札幌011(737)6821 仙台022(239)3705 郡山0249(25)4100 新潟0250(43)4451 足利0284(41)5567 東京03(3265)8741  
静岡054(282)2951 名古屋052(962)7631 大阪06(768)3651 倉敷0864(73)0355 広島082(227)5781 福岡0942(44)7921